

掛川市における全国学力・学習状況調査3年間の概要

H21. 9.8

掛川市教育委員会

過日、文部科学省から平成21年度の「全国学力・学習状況調査」の結果が送付されました。掛川市教育委員会では、この3年間の調査結果の概要をまとめました。

今後は、この「まとめ」に加え、「学校改善支援プラン策定委員会」による詳細な分析をもとに、市独自の「学校改善支援プラン」やその「保護者版」を作成し、今後の指導に生かしていきます。

市内の各学校では、子どもたちの「生きる力」を育むことを目指して「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」の「知・徳・体」をバランス良く育てることに努めています。

なお、この「全国学力・学習状況調査」の「教科に関する調査」の対象は、国語と算数（数学）の2教科の、さらに数値化できる領域であり、「確かな学力」の一部が調査されるものです。

- ※ 調査内容 ① 教科に関する調査（国語 算数・数学）
A. 主として「知識」に関する問題
B. 主として「活用」に関する問題
② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

※ ① ② ③は、原則として3年間を通しての結果を、考察したものである。

1 国語A、国語B、算数A（数学A）、算数B（数学B）の各平均正答率の総合計（400点満点）

小中学校とも各平均正答率の総合計は、3年間を通して県又は全国以上であった。

	小学校	中学校
平成19年度	◎	◎
平成20年度	○	◎
平成21年度	◎	○

◎：平均正答率の総合計が県及び全国以上

○：平均正答率の総合計が県又は全国以上

△：平均正答率の総合計が県及び全国未満

2 小学校の教科に関する調査 〈小学校国語〉

3年間の小学校国語の合計（国語A+国語B）を県と全国と比較すると、平成19年度は県及び全国以上であったが、平成21年度は県及び全国未満となった。

	国語A	国語B	国語A+国語B
平成19年度	◎	◎	◎
平成20年度	△	◎	○
平成21年度	◎	△	△

◎：平均正答率が県及び全国以上
○：平均正答率が県又は全国以上
△：平均正答率が県及び全国未満

- 学習指導要領の3領域1事項「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語事項」別に、3年間の平均正答率を県及び国と比較すると、「書くこと」が一番優れている。（国語A）
- 年度によって課題となる領域は異なり、平成20年度は「言語事項」（国語A）、平成21年度は「読むこと」（国語B）に関する力が不足している。

〈小学校算数〉

小学校算数の合計（算数A+算数B）は、3年間を通してすべての年度で県及び全国以上であった。

	算数A	算数B	算数A+算数B
平成19年度	◎	△	◎
平成20年度	△	◎	◎
平成21年度	◎	○	◎

◎：平均正答率が県及び全国以上
○：平均正答率が県又は全国以上
△：平均正答率が県及び全国未満

- 「図形」では、図形の定義や性質を理解して答える問題の正答率が全国・県と比べておおむね高く、図形についての知識を活用する力に優れている。（算数A／算数B）
- 分数と小数の入った計算の正答率が高く、分数と小数の関係を良く理解している。（算数A）
- グラフを読み取る問題の正答率が低く、グラフを見て必要な情報を取り出す力が不足している。（算数B）

〈小学校 生活習慣・学習環境〉

「生活習慣」「学習環境」ともに全国や県の傾向とほぼ同じである。

〔生活習慣〕

- 「家の人と普段、朝食を一緒に食べる」「今住んでいる地域の行事に参加している」と答えた児童が多く、健全な家庭生活を送り、地域で大切に育まれている。

〔学習環境〕

- 「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりする」「算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思う」と答えた児童が多く、学校では積極的に授業に臨んでいる。
- 「家でテストで間違えた問題について、間違えたところを後で勉強している」と答えた児童が県及び全国に比べて少なく、家庭学習の充実が課題である。

3 中学校の教科に関する調査 〈中学校国語〉

中学校国語の合計(国語A+国語B)は、3年間を通して県又は全国以上であった。

	国語A	国語B	国語A+国語B
平成19年度	○	◎	◎
平成20年度	◎	◎	◎
平成21年度	○	○	○

◎：平均正答率が県及び全国以上
○：平均正答率が県又は全国以上
△：平均正答率が県及び全国未満

- 古典の問題はおおむね平均正答率が高い。(国語A)
- 学習指導要領「書くこと」の領域に関する問題の平均正答率が高く、必要な情報を集め、目的に合わせ工夫して文章を書く力がついている。(国語A/国語B)
- 3年間共通の課題は見あたらないが、特に平成21年度は「言語事項」の理解が不足している。(国語A)

〈中学校数学〉

中学校数学の合計(数学A+数学B)は、3年間を通して県及び全国以上であった。

	数学A	数学B	数学A+数学B
平成19年度	◎	◎	◎
平成20年度	◎	◎	◎
平成21年度	○	◎	◎

◎：平均正答率が県及び全国以上
○：平均正答率が県又は全国以上
△：平均正答率が県及び全国未満

- 図形に関する問題の平均正答率が高く、図形の性質を良く理解している。(数学A/数学B)
- 学習指導要領「数と式」の領域では特に文字式や方程式の平均正答率が高い。(数学A/数学B)
- 3年間共通の課題は見あたらないが、特に平成21年度は「数と式」の領域の、比の意味、正と負の数についての理解が不足している。(数学A)

〈中学校 生活習慣・学習環境〉

ほとんどの項目が県及び全国を上回っており、安定した「生活習慣」好ましい「学習環境」である。

〔生活習慣〕

- 県、国を大きく上回っているものは、「近所の人に会ったときは、あいさつしていますか」「学校に持っていくものを前日かその日の朝に確かめていますか」「学校の規則を守っていますか」「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の4つである。中でも「地域の行事に参加している」と答えた生徒は3年間にわたり、国及び県を大幅に上回っている。
- 「今住んでいる地域の歴史や自然について関心がある。」と答えた生徒が県及び全国と同じように少ない。地域の行事に参加している生徒が多い掛川市としては、地域の歴史や自然に生徒の目を向けさせることが課題の一つである。

〔学習環境〕

- 「家で学校の宿題をしている」と答える生徒が多いなど良い学習習慣が身に付いている生徒が多く、その成果が「中学校の教科に関する調査」の結果にも反映されていると考えられる。